

プレスリリース

2026 年 7 月 27 日 株式会社代地

江戸の恋物語を、紫綬褒章の日本舞踊家 5 人が踊る。

舞台美術は 400 年の伝統工芸

「日本舞踊の可能性 vol.8」 2026 年 11 月、浅草公会堂

～「日本舞踊」を知っていても、観たことがある人は 100 人に 1 人。その扉を開くために生まれたシリーズ、8 年目の挑戦～

株式会社代地（本社：東京都台東区、代表取締役：田中裕士〈藤間蘭黄〉）は、2026 年 11 月 13 日（金）・14 日（土）に浅草公会堂（東京都台東区）にて「日本舞踊の可能性 vol.8」を上演いたします。

全員が紫綬褒章を受章した日本舞踊家 5 人によるユニット「五耀會」が、ロッシーニのオペラ「セビリアの理髪師」を江戸に翻案した喜劇「徒用心」を上演。あわせて、コロナ禍で無観客配信となった作品「門司春秋」を 6 年越しに東京の観客に届けます。舞台美術には、北九州市から無償貸与された約 400 年の歴史を持つ伝統工芸品・小倉織を使用。縞の織物が照明に映え、門司の千数百年の歴史が舞台の上に立ち上がります。

学生・外国人向けに 1,000 円席を新設。「日本舞踊」という言葉は誰もが知っていながら、実際に観たことがある日本人は 100 人に 1 人もいないという現状を変えるため、8 年間で 7 回の公演を重ねてきたシリーズの最新作です。



■ 公演概要

公演名	日本舞踊の可能性 vol.8
日時	2026年11月13日（金）19:00 開演・14日（土）15:00 開演
会場	浅草公会堂（東京都台東区浅草 1-38-6）／994 席
芸術監督	藤間蘭黄（重要無形文化財「日本舞踊」総合指定保持者）
主催	株式会社代地
チケット	S 席 10,000 円／A 席 8,000 円／B 席 2,000 円 A 席ペア 14,000 円 C 席 1,000 円（新設：学生または訪日外国人） パトロネージュシート 20,000 円（良席・特典付き）

■ 見どころ

全員紫綬褒章——流派を超えて集う唯一のユニット「五耀會」が踊る江戸の恋物語

第二部「徒用心」は、ロッシーニのオペラで有名なボーマルシェの戯曲「セビリアの理髪師あるいは無益な用心」を江戸に移して描いた創作舞踊劇です。お殿様がお祭りで見初めた娘との恋を成就させようとあれこれ策を弄する。そこに知恵の回る髪結いが絡んで大騒ぎに。日本舞踊でこんなに笑えるのか、と驚く方が多い作品です。

出演者は、「五耀會」。2008年に西川流・花柳流・藤間流・山村流という異なる流派から結集し、17年間活動を続けてきました。日本舞踊界で流派を超えた共演は今なお極めて稀であり、しかもメンバー全員が紫綬褒章を受章しているユニットは他にありません。



小倉織が彩る港町の千数百年——コロナ禍を越えて東京へ届く「門司春秋」

第一部「門司春秋」は、関門海峡に面する門司の歴史を長唄にのせて綴る作品です。和布刈神社の神事に始まり、弘法大師伝説、源平合戦、大名行列、文明開化、港湾労働者、関門大橋と、千数百年の記憶が二人の舞踊家の身体を通して立ち現れます。

舞台美術に用いるのは、北九州市から無償貸与された伝統工芸品・小倉織。木綿でありながら絹のような光沢を放つ縞の織物が、照明のなかで色を変え、門司の風土と歴史に奥行きを与えます。

この作品は2020年、「東アジア文化都市 北九州 2020-21」交流式典のために創作されましたが、コロナ禍で初演は無観客配信に。2025年に大阪で初めて有観客上演が実現し、今回ついに東京の観客のもとへ届きます。



■ 1,000 円席とペアチケットを新設 — 「価格の壁」と「一人で行く壁」を下げる

日本舞踊の公演には、二つの壁があります。ひとつは価格。5,000 円から 10,000 円台が一般的で、「興味はあるけれど、いくらかかるのかわからない」という声は少なくありません。もうひとつは、ひとりで劇場に向かうことへのためらいです。

本公演では、この二つに応える席を新たに設けました。

1,000 円席（新設・学生／外国人対象）

まず一度観てみるための席です。日本舞踊を知らないまま大人になった世代、そして日本の舞台芸術に触れたい海外からのお客様に向けて、価格を理由に諦めることのない入口を用意しました。

ペアチケット 14,000 円（新設）

大切な方と共に観ていただくための席です。友人同士、ご夫婦、カップル。日本舞踊は、幕が下りたあとに語り合う時間まで含めて味わい深いものと考えています。誰かと分かち合う体験として、二枚一組でお求めいただけます。

パトロネージュシート 20,000 円（継続）

舞台を支えていただくための席です。良席の確保に加え、見どころ講座などの特典を通じて、作品の背景により深く触れていただきます。シリーズ開始以来、この席にお座りいただく方々に支えられてきました。

間口を広く、奥行きを深く。この価格設計によって、日本舞踊と新しい観客との出会いを目指します。

■ 出演者

芸術監督・藤間蘭黄

藤間流の日本舞踊家。2024 年に重要無形文化財「日本舞踊」総合指定保持者に認定。芸術選奨文部科学大臣賞（2015 年）、日本藝術院賞（2019 年）、紫綬褒章（2020 年）を受章しています。2017 年には文化庁文化交流使として 10 カ国 14 都市で活動。この経験が「日本舞踊の可能性」シリーズの出発点となりました。

祖母・藤間藤子は歌舞伎舞踊における女性初の人間国宝であり、その振付は今なお歌舞伎の舞台上で上演され続けています。



五耀會（ごようかい）

2008年12月、「日本舞踊に新しい風を」という志のもとに、西川扇藏（西川流）、花柳寿楽（花柳流）、花柳基（花柳流）、藤間蘭黄（藤間流）、山村友五郎（山村流）の5人が結成。2009年に大阪で旗揚げ公演を行い、以来17年間にわたって活動を続けています。結成後、メンバー全員がそれぞれに紫綬褒章を受章しています。

■「日本舞踊の可能性」シリーズとは

2017年、文化庁文化交流使として海外を巡るなかで確かめた日本舞踊の根源的な力を、他ジャンルとの協働によって伝えたい。その思いから2018年に始まったシリーズです。

8年間で7回。ルジマトフ・岩田守弘との『信長-SAMURAI-』は国内外で計16回を重ね、琉球舞踊の人間国宝・志田房子との『琉球英雄傳』、カフカ原作『変身』ではピアノと対峙しました。2025年には、藤間蘭黄が自ら作詞・作曲を手がけた新作『鄙のまなざし〜一茶の四季〜』を初演。毎回異なるジャンルとの出会いを通じて、日本舞踊を知らない方にも届く舞台をつくり続けています。

vol.1	2018	映像×バレエ×ピアノ。『鷺娘』『展覧会の絵』
vol.2	2019	ルジマトフ・岩田守弘との『信長-SAMURAI-』凱旋公演
vol.3	2020	女性版『徒用心』、ゲーテ原作『禍神』（コロナ禍で客席半数）
vol.4	2022	カフカ原作『変身』（ピアノ：佐藤卓史）、『鳥獣戯画 EMAKI』
vol.5	2023	ルジマトフ・岩田守弘との『信長-SAMURAI-』再演
vol.6	2024	琉球舞踊との共演『琉球英雄傳』（人間国宝・志田房子 特別出演）
vol.7	2025	バレエ・ダンサー山本隆之との『展覧会の絵』、新作『鄙のまなざし〜一茶の四季〜』（藤間蘭黄 作詞・作曲）
vol.8	2026	五耀會『徒用心』＋『門司春秋』東京初有観客上演

■ 取材について

本公演に関する取材を歓迎いたします。稽古場取材、出演者インタビュー、ゲネプロ（公開リハーサル）取材にも対応可能です。高解像度の画像素材もご用意しております。お気軽にお問い合わせください。

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社代地（Daichi, Inc.）

担当：河内 彩

所在地：〒111-0052 東京都台東区柳橋 2-1-1

メールアドレス：kouhou@daichi-fjm.co.jp

TEL/FAX：03-5829-6130

日本舞踊の可能性 公式 URL：<https://www.nbkanousei.com/>

※本プレスリリースに記載の情報は発表日時点のものです。今後予告なく変更となる場合があります。

※画像素材（舞台写真、出演者写真、小倉織写真等）はすべてメディア様にご提供可能です。お問い合わせ先までご連絡ください。